

二国間交流事業 セミナー報告書

令和5年3月31日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]
長崎大学 グローバル連携機構
[職・氏名]
助教・森保 妙子
[課題番号]
JPJSBP2 20219906

1. 事業名 相手国: タイ(振興会対応機関: OP)とのセミナー

2. セミナー名

(和文) アジアにおける包括的薬剤耐性対策の構築に向けた日・タイ共同セミナー

(英文) The First Thai-Japan Antimicrobial Resistance (AMR) Seminar: Toward the Expansion of the Asia AMR Consortium

3. 開催期間 2022年12月19日 ~ 2022年12月21日 (3日間)

4. 開催地(都市名)

ナコーンシータンマラート、バンコク

5. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Thammasat University・Kesara Na-Bangchang・Initiator and Director

6. 委託費総額(返還額を除く) 2,786,588 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	13名	11名
相手国側参加者等	40名	0名

参加者リスト(様式B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在費等を負担した場合、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を委託費で負担した場合に記入してください。

8. セミナーの概要・成果等

- (1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載してください。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。各費目における増減が委託費総額の50%に相当する額を超える変更があった場合には、その変更理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。)

本セミナーは、日・タイにおける薬剤耐性対策にかかる現状と課題を共有し、その課題解決に向けた国際共同研究協力案件へと発展させるための議論を行うものである。1日目と2日目は、タイ王国ナコーンシータマラート県を訪問し、コミュニティにおけるAMR対策活動の先行事例としてワライラック大学病院、ナコーンシータマラート県タサラ地区病院(二次医療機関)およびトンレアアップヘルスセンター(一次医療機関)を訪問し、その取組みを視察した。視察に先立ち、ワライラック大学病院にて、タイ政府が実施する抗生物質の適正利用ガイドラインについての説明を受け、国としての政策が1次医療、2次医療の現場で実際にどのように運用されているかを確認した。また、日本のAMR対策の動向として、AMR臨床リファレンスセンターにおける取組を共有し、両国におけるAMR対策の現状と課題を議論した。3日目はタマサート大学でシンポジウムを開催し、AMR対策としての①サーベイランスとモニタリング②新しい抗菌薬のR&D③薬剤耐性菌診断薬の開発という3つのテーマをもとに議論をおこなった。シンポジウムでは、本セミナーを通して明らかになった課題に対して、日本とタイの両国がどのような研究協力が可能であるか、今後の展望についても議論を行った。(各費目における増減について、委託費総額の50%に相当する額を超える変更はなし)

- (2) 学術的価値(セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

タイでは、抗菌薬適正使用ガイドラインに則って、抗菌薬の処方量を減少させることを目標にAMR対策が取られている。対策の成果は処方量減少に現れているものの、日本のデータを基にした最新の知見では、抗菌薬処方量の減少は必ずしも薬剤耐性菌の減少に寄与しないことが明らかとなっており、処方量だけでなく、薬剤耐性菌自体のサーベイランスが不可欠である。しかし、タイにおける薬剤耐性菌のサーベイランスは未だ十分に制度化されておらず、その広がりを国レベルで把握するのはハードルが高い。株式会社アドバンセンチネルが開発する環境DNA検出手法は、高度なラボ施設を必要とせず、簡便で、薬剤耐性遺伝子の検出も可能なことから、病院周辺の排水やコミュニティ内における薬剤耐性菌のモニタリングへと展開させる可能性が議論された。

また、長崎大学では、海洋微生物抽出物ライブラリーや抗体産生システムを構築しており、ハイスループットスクリーニングシステムや抗体産生システムを利用した創薬を行っている。ワライラック大学もタイランド湾に面して豊富な海洋資源へのアクセスが可能であり、海洋微生物の抽出やサメを使った免疫実験システムの構築について長崎大学と共同で進めていくことが議論された。

- (3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

長崎大学は、これまでタマサート大学と新薬研究開発にかかわる共同研究やディプロマコースの実施を進めてきたが、本セミナーの実施により新たにワライラック大学との学術交流を開始した。ワライラック大学はタ

イ国内において比較的新しい高等教育・研究機関であり、これから国際的な共同研究やセミナー開催などの学術交流に積極的に取り組みたいという大学の意向を受けて、若手研究者が意欲的に本セミナーの運営に関わってくれた。日タイの学術交流を進めるうえで、タマサート大学のような歴史と実績のある大学とだけではなく、ワライラック大学のような若い大学とも協力してセミナーを開催できたことで、若手研究者を積極的に巻き込んで共同研究へと展開していく基盤ができた。すでに、このセミナーにおける議論をもとに、研究費獲得や継続的なセミナー開催の企画が始まっており、今後さらなる学術交流が期待できる。

(4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

AMR は国境を越えて人々に脅威をもたらす課題であり、国際的な情報共有と取り組みが必要である。タイを含む東南アジアでも、ヒトにおける抗微生物薬耐性の出現とその蔓延のリスクがますます高まっており、各国が抗微生物薬の処方方を改善し、薬剤耐性を低下させるための対策を進めることが喫緊の課題である。本セミナーでは、サーベイランス・モニタリングのための情報収集システム構築や新薬開発、地域住民の意識向上や啓発など AMR 対策における包括的な議論を行い、今後 AMR の解決に資する共同研究へと展開可能となった。

(5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

本セミナー開催により、日タイの若手研究者の交流が深まり、今後、定期的にセミナーを開催することを計画している。ワライラック大学と長崎大学は共同で、大学院生や若手研究者のためのトレーニングコースの準備を進めている。また、それぞれの若手研究者をPIとして、研究資金獲得できるようにAMR対策のための日タイ大学コンソーシアムとして支援していくことが確認された。

(6) 将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

現在、本セミナーの成果を発展させる形で以下の事業を計画している。

- ・ ワライラック大学の大学院生・若手研究者を招聘した AMR サーベイランスに関するトレーニングプログラムの開催(JST さくら招へいプログラム (科学技術研修コース)に申請予定)
- ・ ナコーンシータマラート県タサラ地区を中心としたコミュニティベースの AMR サーベイランスの構築(eASIA に申請予定)

(7) その他(上記(2)~(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記載してください)

特になし